

論文審査の要旨
Summary of Dissertation Review

博士の専攻分野の名称 Degree	博 士 (学 術)	氏名 Author	WIDDY MUHAMMAD SABAR WIBAWA
学位授与の要件	学位規則第 4 条第①・2 項該当		
論 文 題 目 Title of Dissertation A Study of the Antecedents of Work Engagement			
論文審査担当者 Dissertation Committee Member			
主 査 Committee Chair	准教授 高橋 与志	印 Seal	
審査委員 Committee	教授 市橋 勝		
審査委員 Committee	教授 柿中 真		
審査委員 Committee	教授 Maharjan Keshav Lall		
審査委員 Committee	インドネシア大学心理学部・准教授 Corina D. Riantoputra		
〔論文審査の要旨〕 Summary of Dissertation Review			
<p>「仕事からの活力、仕事への熱意と没頭が揃った状態」と定義づけられるワークエンゲージメント (work engagement, WE) は、個人レベルの持続的な幸福度だけでなく組織レベルの生産性などの向上への貢献が期待できることから、人的資源管理論、組織行動論の中心的な概念の一つとして研究が蓄積されてきた。本論文では、インドネシアの公的及び民間セクターの従業員を事例に、WE の先行要因について、仕事の要求度－資源モデル (job demands-resources (JD-R) model) を拡張した分析枠組みを用いて論じている。</p> <p>章別構成は以下の通りである。第 1 章で序論を述べた後、第 2 章では修士以上の学歴を持つ両セクター従業員の観察データを用いて JD-R モデルの適用可能性を分析し、JD の一種である感情的要求度と JR の一種である組織による支援が、それぞれ負及び正に WE を予測することが示された。第 3 章では、職務経験のある大学院生の実験データを用いた分析の結果、倫理的リーダーシップは WE に正の効果があったが、仕事中毒 (workaholism) には有意な効果が見られなかった。第 4 章では若手財務省職員を対象とした実験データによる分析の結果、倫理的及び変革的リーダーシップが WE に正の効果を持ち、前者の効果は公共サービスへの動機によって強化されることが分かった。第 5 章は結論である。</p> <p>当該分野における主な貢献としては、公的及び民間セクターの比較 (第 2 章)、いずれも似通った部分があるとされる 2 つの目的変数の比較 (第 3 章)、2 つの先行要因の比較 (第 4 章) が挙げられる。</p> <p>また本論文の主な内容の一部は、査読付き論文 2 篇 (ともに ESCI 誌) として刊行済みである。他の主要な分析結果についても、査読付き論文として投稿準備を進めている。以上の審査の結果、審査委員一同は、本論文が著者に博士 (学術) の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			